

令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 夢や目標を探求し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成

目指す子どもの姿 ①未来予想図を描き、実現に挑む生徒
②意欲を持ち、創り出し、やり抜く生徒
③自他を大切にし、前向きで心豊かな生徒

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力
e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立 上野台中学校
学校長 福岡 孝太郎

研究主体【管理職、研究推進、情報教育、その他関係分掌】

前年度		継続性	4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)			2~3月 年度末評価	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	今年度の成果と来年度に向けた課題等
1. 授業改善 「分かる」「楽しい」「伸びる」授業の創造	○全校道徳の授業を2回体育館で行った。またその授業のために、数回職員研修で学びを深めることができた。 ○共同編集についての授業公開、研修の機会をもった。 ○理科、音楽、英語、技術科が研究授業を行った。 ○2年生が来年度の修学旅行に向けての調べ学習において、keynoteを使った共同編集を行った。	A	1. 授業改善(a,b,c)	○教員が、自らの授業力向上・改善に努める。	○授業公開週間を設け、積極的に全教員が授業の見学に行く。見学者は、自分に足りないところを補い、今後の指導に活かす。	○授業見学週間を学期に1回行うことができた。 ○授業見学の振り返りシートを踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての研修を行うことができた。 ◆年度当初にテーマを設定し、テーマに沿った授業見学週間としていきたい。	B
2. 自主学習の習慣・工夫・定着	○計画どおりアンケートを実施し、子どもたちの学習実態を把握することができた。 ○おすすめの学習方法(教員や生徒の体験)を通信で紹介することができた。 ○生徒の学力の状況(日々の学習、テスト前、授業や家庭学習)や基礎学力の定着のために必要なことなどをアンケートにより教員の抱えている現状を出し合うことができた。日々職員室で生徒の学力定着に向けて悩みや成果を話題にはしていたが、改めてそのことについて考え、意見を共有することができた。 ◆上記の内容について、具体的な方法を進めていく必要がある。授業改善、生徒との教員の本音の出し合い、生徒同士、異学年での学習に関する交流、保護者との連携 ○先輩から後輩へのメッセージ(卒業直前3年生から後輩へ)	B	2. 学習習慣の確立(c,e,f)	○生徒が、家庭学習を自分事として捉え、現状の家庭学習を見直し、よりよい家庭学習の在り方を考える。	○異学年交流の場で、自身の家庭学習について意見を交流する。3年生は、1・2年生に家庭学習で大切になることを伝授する。 ○生徒会が中心となって、「家庭学習の手引き」を作成する。 ○保護者向けの「家庭学習の手引き」を作成し、理解を促す。	○家庭学習についての意見交流や「家庭学習の手引き」を作成するなど、家庭学習の見直しを促すことができた。 ◆2学期末に実施した学校評価「家庭で自主的に学習に取り組んでいる」の項目で、生徒と保護者の結果に開きがある。肯定的な意見は、生徒…90%超、保護者…63%(昨年より13%減) ◆来年度も生徒が中心となって「家庭学習の手引き」を作成し、学習に対する意識を高める取り組みが必要である。	C
3. 学力補充	○ミライシード(ドリルパーク)を中心に朝学習を行った。新しい試みとして3学期に英語科で発音に集中した10分授業を実施し、単語を読むことの課題にアプローチした。 ◆ひょうごがんばり学びタイムに関しては、テスト前を除くと参加する生徒が少なかった。現在はバス待ちの生徒に限定しているが、徒歩、自転車通学を含めて、より多くの生徒が参加できるように再考する必要がある。 ○小テストや単元テストを計画的に実施し、コツコツと取り組める生徒が増えてきた。 ◆家庭学習の習慣がまだ十分ではない。	B	3. 朝学習の充実(a,d)	○教員が、生徒のつまずきを把握した上で、授業改善に活かす。(指導と評価の一体化)	○週4日、朝のSHR前の10分間、朝学習を行う(国→数→社→理→英の順)。 ○取り組み内容として、 ・ミライシードのドリルパーク…「一斉課題配信」or「個々の自由選択」 ・教科で準備したプリント	○計画通り週4日間、10分間の朝学習に取り組む時間を確保した。一斉課題配信の教科もあれば、個々の自由選択の教科もあった。 ◆「一斉課題配信」と「個々の自由選択」のそれぞれのメリットについて研修する必要がある。 ◆朝学習の進捗状況を確認できていない教科もあったので、生徒のつまずきを把握し授業改善に活かす取り組みを推進していきたい。 ◆より充実させるため、実施時期を早めるなど、取り組み期間を広げる。	C
4. 小中連携の充実	○入学説明会の日に、音楽の体験授業を行った。 ○外国語教育の分野で、小学校の授業を参観、また中学校の授業を参観することができた。 ○7月26日に中学校区幼小中全教職員対象合同研修会「子どもの社会的自立を目指した不登校支援」を実施した。 ◆各担当者の情報共有、連携を更に強化	B	4. 指導と評価の一体化(e,f)	○各教員が、PDCAサイクルを意識して教科指導に当たる。	○教員が、朝学習の取り組み状況を確認する。(生徒にさせっぱなしにしない) ○各学期の定期考査は1回なので、評価に当たっては定期考査だけでなく、小テストや単元テストを定期的に行い、これらを通して生徒のつまずきを把握し、授業改善に活かす。	○全教科で小テストや単元テスト・実技テストを実施できていた。 ○PDCAサイクルを意識した教科指導ができたとする回答が比較的多かった。 ◆生徒の理解定着や「わかる楽しさ」につなげる授業づくりを推進していく必要がある。	B
5. 読書活動の充実	○「読書の秋を楽しもう!スタンプラリー」を1か月間実施した。 図書室利用者が昨年度より2倍近くまで増加した。また、実施期間後は、少し利用者が減りはしたが、常連ではなかった生徒の貸出が常連になりつつある。	A	5. 研修の強化(c,d,f,g)	○様々な分野における研修を実施し、資質を高める。	○校区内幼小中合同研修会(カウンセリングマインドについて) ○道徳人権研修(読み物教材の指導強化) ○ICT活用研修(Keynote共同編集について) ○教科指導研修(指導と評価の一体化について交流)に関する研修を実施する。	○職員研修は積極的に行うことができた。 ・校区内幼小中合同研修会(カウンセリングマインドについて 講師:本校SC) ・道徳授業実践(読み物教材の指導強化 講師:兵教大下野先生) ・特別支援教育(困っている生徒がSOSを出しやすい環境づくり 講師:上野ヶ原特別支援学校 谷内先生) ・リアテンド研修(採点効率向上 講師:情報教育担当) ・学習評価の在り方について(主観評価の捉え方 講師:研推担当) ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて(Keynote共同編集の実践事例を踏まえた研修 講師:研推担当) ・指導と評価の一体化(PDCA授業改善、教育課程論点整理の内容について 講師:研推担当)	A